

令和5年度岡山県農林水産総合センター 森林研究所（木材加工研究室） 機関評価結果票

1 運営方針及び重点分野	非常に優れている 1人	優れている 5人	妥当 人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
<p>助言、指摘事項等</p> <p>1. 設定された運営方針及び重点分野（の策定方針）に基づいて、県産材利活用に関する試験評価、開発研究や普及活動等へ活発な取組が行われている。</p> <p>2. 地域の要望に応じて試験、研究を実施しており、民間企業にとっても、側面的な支援となっている。</p> <p>3. 木材加工研究室の総仕事量（総活動量）に対する注力バランスを明確にするなどの効率化を図る工夫が必要である。</p> <p>4. 林業木材関係分野はもちろんのこと、より一層の地位の拡充に尽力いただきたい。</p> <p>5. 研究成果をさらにレベルアップし、普及促進していくためには民間企業との密な連携が必須と考える。</p> <p>6. さらに民間の力を借りて、実用的な活用ができることを期待する。</p>					
2 組織体制及び人員配置並びに 予算配分	非常に優れている 人	優れている 2人	妥当 1人	見直しが必要 3人	全面的見直しが必要 人
<p>助言、指摘事項等</p> <p>1. 限られた人員・予算で、様々な研究等に取り組んでいる。可能であれば、人員・予算とも増やしてほしい。</p> <p>2. 予算増額のためには県費外の外部資金獲得も必要ではあるが、そのための仕事が増えないようにするためにも、県費（内部資金）による予算充実が望ましい。</p> <p>3. 木材加工研究室の有する知識と技術の継承のためにも、人員については県職員の採用計画へ研究室スタッフの増員が組み込まれることが望ましい。</p> <p>4. 全国的に見て、林業先進県は各分野でのパイオニアが存在して居るように感じられるが、岡山県でも、専門分野の研究者の育成が急がれる。</p> <p>5. 研究員や技師は知識や経験が必要で、本人の希望もあるが、適した人材をできるだけ長く勤務できるように配慮してほしい。行政職との人事交流の必要性は理解できるが、できるだけ少なくし、交流する場合には1回当たり短期間に限定すべきである。</p>					
3 施設・設備等	非常に優れている 人	優れている 3人	妥当 2人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 人
<p>助言、指摘事項等</p> <p>1. 直近の3年間で新たな設備を導入しているが、施設が完成して36年が経過している。一般の人も訪れやすい改修が必要な時期である。</p> <p>2. 民間では難しい研究を遂行している機関であり、施設や設備の更新は必要なことから、厳しい予算とは思いますが順次進めてほしい。</p> <p>3. 運営方針及び重点化課題に沿った設備の導入が進められ、設備活用による成果も得られている。</p> <p>4. 木材加工研究室の所在からは県内の他研究機関と機器共同利用も困難であるため、さらなる設備充実が必要である。</p> <p>5. 研究員や技師が落ち着いて業務に集中できる環境が望ましく、そのような組織体制や環境づくりに努めてほしい。</p>					
4 研究成果	非常に優れている 2人	優れている 2人	妥当 2人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
<p>助言、指摘事項等</p> <p>1. 取得している特許や実用新案を活用する企業もあり、スタッフの努力の賜物といえる。今後ともより多くの企業に利用してもらう必要がある。</p> <p>2. 実用段階に達している点を高く評価したい。</p> <p>3. 県産材利活用に貢献する優れた成果が得られており、企業等への技術普及や継続的な成果発表が行われていると思われる。</p> <p>4. 県産材を多方面から見た基礎データの蓄積が高い技術力や地域資源の活用した商品開発や知的財産・特許に繋がると思う。引き続き頑張してほしい。</p> <p>5. 開発された製品・技術の実装に向けては、さらなる努力が求められる。</p> <p>6. 過去の研究や引用できるようなデータの活用や将来展望の県林政方針の中で、積極的に、かつ広</p>					

範囲の中で価値の見極めが大切と考える。単発で終わるのではなく、その研究成果が十分に活用されるように考えてほしい。

7. 林業・木材業界の関係者に十分周知されていない部分があると思われる。様々な機会をとらえて発表や説明を行ってほしい。

5 技術相談・指導、普及業務、行政検査、 依頼試験、情報提供等所掌業務の実施状況	非常に優れている 2人	優れている 3人	妥当 1人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
---	----------------	-------------	----------	-------------	----------------

助言、指摘事項等

1. 技術相談・指導、情報提供等によって県内木材産業界及び同従事者に対して大きな貢献が行われている。
2. 十分に実施できており、今後も継続してもらいたい。
3. 企業や大学など多方面からの技術相談を受けるなど信頼されている。依頼試験や視察・見学等の普及業務も実績を重ねているが、一般県民に加工研究室の存在を知ってもらう取組も重要である。
4. 依頼試験が増加しているのに対し、技術相談（R2、R3、R4）で次第に件数が減っているように見える。
5. 技術相談についてはおそらくは一律の対応がなされていないため、本項の評価においては件数に加えて対応時間（期間）等による評価も必要と思われる。
6. 年間を通じて技術相談が多いのは良いが、専門的課題や業務相談がなされて研究員や相談員など機能としての運用がスムーズに流れることを願う。
7. 一般県民へのPR活動も含めて、もう少しアイデアと周知が望まれる。
8. 限られた人員配置の中での技術相談・指導、普及、行政検査、依頼試験、情報提供など大変だとは思いますが、今後も引き続き頑張ってもらいたい。

6 人材育成	非常に優れている 1人	優れている 3人	妥当 1人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 人
--------	----------------	-------------	----------	--------------	----------------

助言、指摘事項等

1. 若いスタッフが育っている。委員からも指摘があったが、業界のパイオニア精神を持った人材が必要である。
2. 運営方針及び重点化課題に沿った人材育成が行われおり、研究発表賞を受賞するなど関連分野における高い評価も得られている。
3. 中堅・ベテラン職員と若手職員がうまく配置されており、今後も知識や経験がうまく承継できるように努めてもらいたい。
4. 研究職員は今後さらに幅広い対応力が求められる一方で、各々の専門的な知識・技術による高度な研究遂行能力が求められるため、レベルアップに繋がる中長期的な育成システムの構築が必要である。
5. 木材加工研究室での森林林業全般に於ける専門研究者の資質も含め、教育育成のための研究、労働環境などの見直しが必要ではないか。先進県内企業への出向なども含めて育成方法はあるのではないか。
6. 限られた人員の中での研究者や若手職員の育成は難しいとは思いますが、今後も引き続き頑張ってもらいたい。

7 他機関との連携	非常に優れている 1人	優れている 5人	妥当 人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
-----------	----------------	-------------	---------	-------------	----------------

助言、指摘事項等

1. 岡山大学や企業などと積極的な共同研究を行っている。これからも、連携を強化して資源の有効活用を進めてほしい。
2. 地場産業や全国の研究機関等と様々な連携を行っている点を高く評価できる。
3. 企業、関連団体、大学等と多岐に渡る連携先との間で、共同研究や情報交換等によって活発な連携が行われている。
4. 様々な機関と連携できており、今後も引き続き連携し、研究成果の普及につなげてもらいたい。
5. 他機関、他行政の専門家との交流の場を持ちながら、広い意味での国費の活用法や岡山県がリーダーシップを取れる姿を望む。
6. 県内外の研究機関や企業などとの共同研究、及び情報交換は重要だと思う。特に県内高校生や大学生インターンシップの受け入れは、森林・林業・木材業界の未来の担い手として重要である。今後も引き続き頑張ってもらいたい。

8 県民・地域への貢献	非常に優れている 1人	優れている 2人	妥当 2人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 人
助言、指摘事項等					
<p>1. 毎年、研究成果発表会（R3～4年度はHPで動画公開）を開催するなど、多くの人にアピールしている。一般消費者にも、理解しやすい切り口での成果を紹介することで関心が高まり、森林研究所の存在意義も高まるのではないかと。</p> <p>2. HP上情報公開や実地の広報活動等によって、県民へ県産材の魅力を伝えており、十分な貢献が行なえている。</p> <p>3. 技術相談や受託研究等によって、県内関連企業や地域の従事者の技術力向上への貢献が行われている。</p> <p>4. 県民の理解を深める取組は徐々に増えていると感じるが、まだ不十分と思われる。様々な機会を捉えて、情報発信を行っていただきたい。</p> <p>5. 研究成果等を成果発表会やホームページ、研修会、業界相談会などで今後も引き続き頑張ってもらいたい。</p> <p>6. 未来を担う子ども達にも、森林・林業・木材などに興味が芽生えるような機会を作ってもらいたい。</p>					
9 前回指摘事項への対応	非常に優れている 人	優れている 5人	妥当 1人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
助言、指摘事項等					
<p>1. 人材育成や設備の導入・更新など簡単ではないが、委員からの要望やアドバイスに応えるべく取り組んでいる事がうかがえる。</p> <p>2. 全体的によく対応できており、今後も継続してほしい。</p> <p>3. 改善途上の事項についても対応に向けた姿勢を窺うことができるが、未改善の事項については実施不要・困難の件も取組まれていると思われるため、整理された結果が示されることが望まれる。</p> <p>4. 関係者、県民へのPRについて、さらに改善していただきたい。</p>					

総合評価	非常に優れている 人	優れている 5人	妥当 1人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
助言、指摘事項等					
<p>1. 厳しい予算の中で研究所の運営に努力している。すぐに結果が出ない課題にも、継続して研究するなど、民間では対応が難しいことに挑戦している。</p> <p>2. 財政面を含め、外部との連携を図り、基礎から応用まで進展を続けている。</p> <p>3. 今回の評価期間においては、コロナ禍による制限がある中で、優れた実績が上げられていることは高く評価されるとともに、さらなる充実と発展が期待される。</p> <p>4. 県産材の生産量増加や製品品質高度化が進むに従って木材加工研究室の業務も増加すると思われるため、人員の増強とともに、蓄積された知識・技術の継承を効果的に実施する体制の構築が望まれる。</p> <p>5. 林業・木材関係者、他の行政機関等からの森林研究所に対する期待が大きいと感じている。</p> <p>6. 外部から時には厳しい意見もあると思われるが、率直に耳を傾け、できることとできないことを明確にし、研究成果は広くPRし、県民の理解増進や関係団体の業務改善に役立つものとしていただきたい。</p> <p>7. 岡山県の林業・木材産業の発展になくてはならない機関であり、業界を取り巻く厳しい状況を改善していくために更なる貢献を望むものである。</p>					

注意事項

各評価委員の評価内容を基に、重複する評価内容を取りまとめて記載する等、2～3枚程度でとりまとめてください。また、この資料は、HPで公表されるとともに、農林水産委員会等の資料として使用予定ですので、特定の個人を指す事例や特許取得等に支障がある内容は表現を改める等、個人情報の保護や知的財産権の取得等に支障がないよう、配慮してください。